

山本 涼子 議員



村有地売却!? 最高級ブランドホテル誘致!?

いつ、誰が、決めたのか

山本議員

11月7日から南阿蘇村HPにて、阿蘇カルデラ南外輪山宿泊施設誘致の為の事業者の募集としてプロポーザルによる公募が開始。旧グリーンピア南阿蘇東側の原野及び山林・雑種地の28.5haを売却し、最高級ブランドホテルを誘致する計画。9月の定例会終了後の政策懇談会で初めて聞く（詳細説明11/26）。この決定の経緯と、村及び村民へのメリットとデメリットは。

事業継続の方針を踏襲

村 長

H28熊本地震後の県の復旧復興4か年計画を受け、「上質感のある宿泊施設の誘致」に向け県観光物産課が阿蘇郡内市町村を対象に適地調査を実施、県の誘致活動により大手デベロッパーよりグリーンピア南阿蘇の東側村有原野の情報提供依頼あり。昨年6・7・8月の全協で報告。10月第3駐在区臨時総会で、原野公売について説明し意見や要望を伺い入会地の売却の賛同を得て、担当課から当時の村長に報告。2月の選挙後、本事業がブランド力強化・地域活性化に繋がると判断し事業継続の方針を踏襲。

メリット①一時金や固定資産税等の収入②経済の活性化や雇用創出の促進③ブランド化・新たな観光コンテンツ化④野焼きの負担解消⑤阿蘇の観光へ寄与。

デメリット①交通渋滞②騒音③ごみ問題

既にあるブランド力を生かす

山本議員

県の構想から9年も経過。知事も村長も議員、時代のフェーズも変化。前年度は県と企業と村の三者による連携協定との認識で推進。しかし企業側に問題が生じ連絡が途切れた。選挙もあり事業は一旦白紙と考える。実際、現在県は情報共有のみの立ち位置。

プロポーザルの中の事業の目的「仕事をつくり、仕事が人を呼び、人が仕事を呼び込む好循環」とあるが、現在村内のホテルや旅館の雇用は不足。新規オープン予定のホテルが3つもある。

デメリット①掃除等の雇用確保の為、高額な給与で募集。今既に不足の介護関係の雇用が流出、訪問介護事業所等の閉鎖が予想。②パンデミックとなれば、インバウンド頼りの地域へのダメージ大。ホテルが廃業

となれば売却。手放した村有地を誰が購入しようと村は関われない。③今回の開発を皮切りに民間の山林の売却も進み、南外輪山の景観の破壊促進。

そもそも南阿蘇には信頼・価値・独自性などの総合的な魅力が既にある。今「ある」既に「ある」価値を再認識し、さらに磨きをかけるべく、「自然と共存するための環境に優しい取組」と「心身が喜ぶ価値の高い作物を手がける村づくり」が重要。11月村で開催された「阿蘇の農業が日本を救う」の講演会の講師の「野菜作りは人間づくり、微生物から学ぶ生命の循環」には、更なる南阿蘇のブランド化のヒントがある。乱開発の進む北海道と同じ道を辿るのか、白川郷など自然・風土・景観・文化を守り後世に引き継ぐか選択の時である。富裕層向けのホテル誘致事業ではなく、価値ある村づくりを希望。プロポーザルの中止を願う。

村 長

新たな雇用の創出と地元の負担軽減の一手段として村内誘致を進めている。

①地元理解②適正なプロセス③具体的な事業計画

以上の3点が示される企業しか誘致はしない。さらに、プロポーザルで審査し、最後は議会の議決を得る。

自然共生型アウトドアパークとして活用提案

山本議員

森で遊び森を生かすをコンセプトに全国で展開の企業と官民連携。村民の子ども無料のスペースを確保すれば、遊び場問題も解消。子ども連れの若い夫婦の移住が増え、地域の活性化に繋がり若者の雇用も生み出す。観光施設等と連携し客を呼び込むなど可能性が拡大。村が一望できる場所で遊んで育った子ども達は、心身の健康を得て、そしてこの村の素晴らしさを目に焼きつけ、やがてこの村を担う立派な大人になると考える。「宝の山」「子は宝」自然豊かな阿蘇の山々を生かし、子ども達の未来の為に方針転換を願う。



村 長

今回のプロポーザルは宿泊施設誘致事業に対する提案であるので、議員提案の内容を宿泊事業と絡めた提案であれば、審査の土俵に乗る可能性がある。